

授業科目 (科目ID)	介護福祉基礎実習	担当教員  (実務経験)	高橋 綾  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士としてケア	
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数
授業形態	実習	授業回数(1回90分)		時間数
授業目的	1. 住み慣れた地域で暮らす高齢者や障害のある人が、その人らしく生活している状況を理解し、生活支援のあり方を学ぶ。 2. 人間関係を形成しながら、個別ケアの重要性について学ぶ。			
到達目標	令和5年度介護福祉実習要項参照			
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『令和5年度介護福祉実習要項』 学校法人吉田学園専門学校北海道福祉・保育大学校			
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験	%	実習先評価及び学校評価を総合的に判断する。	
	レポート	%		
	小テスト	%		
	提出物	%		
	その他	100%		
履修上の留意事項	介護福祉基礎実習を実践するためには、とりわけ介護総合演習Ⅰにおける事前学習での学びが重要となります。またその他の解して、実習の場において対象者に対応するための基礎的知識を身に付けておくこと。			
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容	
		介護福祉の役割と機能 (高橋・阿部・泉・山谷)	地域における多様な生活の場の社会的な役割を	
		介護福祉の役割と機能 (高橋・阿部・泉・山谷)	入所介護・通所介護の必要性を学ぶ	
		介護福祉の役割と機能 (高橋・阿部・泉・山谷)	介護福祉の社会的な役割を考える	
		利用者の理解 (高橋・阿部・泉・山谷)	地域における生活、日常生活について理解する	
		利用者の理解 (高橋・阿部・泉・山谷)	地域における生活を支える社会資源と支援制度を	
		利用者の理解 (高橋・阿部・泉・山谷)	コミュニケーションを実践して、人間的関わりの基	
		専門職としての役割及び介護実践 (高橋・阿部・泉・山谷)	利用者の様々な生活の場における、介護福祉士	
		専門職としての役割及び介護実践 (高橋・阿部・泉・山谷)	安全に配慮した基礎的な介護技術・知識を学ぶ	
		その他詳細は介護福祉実習要項を参照とする		

’ハウスに勤務

2単位

96時間

科目における学びを十分に理

理解する

を学ぶ

礎を学ぶ

の役割を学ぶ



2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護福祉実習 I		担当教員  (実務経験)	高橋 綾  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士としてケアハウスに勤務	
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)		時間数	160時間
授業目的	1. 様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを理解し、総合的に利用者の日常生活援助のできる能力を養う。 2. 専門職としての職業倫理を身につけ、保健・医療・福祉の連携、チームの中で実践する能力を養う。				
到達目標	令和5年度介護福祉実習要項参照				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『令和5年度介護福祉実習要項』学校法人吉田学園専門学校北海道福祉・保育大学校				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	実習先評価及び学校評価を総合的に判断する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	100%			
履修上の 留意事項	介護実習を実践するためには、とりわけ介護総合演習 I における事前学習での学びが重要となります。またその他の科目における学びを十分に理解して、実習の場において対象者に対応するための基礎的知識を身につけておくこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
		介護福祉の役割と機能(高橋・阿部・泉・山谷)	地域における様々な場(施設・居宅等)の社会的な役割を学ぶ		
		介護福祉の役割と機能(高橋・阿部・泉・山谷)	介護福祉の社会的な役割を学ぶ		
		利用者理解(高橋・阿部・泉・山谷)	利用者の生活の場、日常生活について理解する		
		利用者理解(高橋・阿部・泉・山谷)	利用者及び家族とのコミュニケーションを実践し、人間関係の形成ができる		
		利用者理解(高橋・阿部・泉・山谷)	受け持ち利用者との関わりから、情報収集の必要性を理解する		
		介護実践(高橋・阿部・泉・山谷)	基本的な生活支援技術を実践し、日常生活援助に関する能力を高める		
		介護実践(高橋・阿部・泉・山谷)	住環境設備、福祉機器に関する知識及びその活用方法を身につける		
		介護実践(高橋・阿部・泉・山谷)	介護実践の根拠を理解し、相手の立場で考える習慣を身につける		
		介護実践(高橋・阿部・泉・山谷)	対象者との関わりを体験し、介護ニーズに対応できる知識と能力を身につける		
		専門職としての役割と職業倫理(高橋・阿部・泉・山谷)	介護福祉士の業務を理解する		
		専門職としての役割と職業倫理(高橋・阿部・泉・山谷)	介護福祉を学ぶ学生として自己を振り返る場とする		
		専門職としての役割と職業倫理(高橋・阿部・泉・山谷)	専門職としての職業倫理を身につける		
		その他詳細は介護福祉実習要項を参照とする			



2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	こころとからだのしくみ		担当教員  (実務経験)	喜田 俊恵  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	人のこころやからだを理解する上での基本的内容を学ぶ。身じたく、移動、食事、入浴などの生活活動に対して、そのしくみや加齢による変化、及び心理的側面への配慮を学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活動作を行う為の身体のしくみについて、専門職としての必要な知識を述べるができる。</li> <li>介護を実践するにあたり、ケアの根拠を説明することができる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	・定期試験、小テスト、授業への取組姿勢・参加態度を総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の留意事項	教科書に基づき講義・演習と定期的な小テストを行います。生活支援技術と関連付けて学習して下さい。覚えなければならないことがたくさんあります。積極的に授業に参加して、知識を深めていって下さい。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	こころとからだのしくみとは何か 授業の進め方について		
	2	こころのしくみを理解する	人間の欲求とは・自己実現と尊厳・こころのしくみの基礎		
	3	からだのしくみを理解する	からだのしくみ		
	4	からだのしくみを理解する	からだのしくみ		
	5	からだのしくみを理解する	からだのしくみ・演習		
	6	移動に関連したこころとからだのしくみ	移動のしくみ		
	7	移動に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響		
	8	移動に関連したこころとからだのしくみ	変化の気づきと対応・演習		
	9	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	身じたくのしくみ		
	10	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	身じたくのしくみ		
	11	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響		
	12	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	変化の気づきと対応・演習		
	13	食事に関連したこころとからだのしくみ	食事のしくみ		
	14	食事に関連したこころとからだのしくみ	食事のしくみ		
15	食事に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす対応			

履修主題・履修内容	16	食事に関連したところからだのしくみ	変化の気づきと対応・演習
	17	入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみ	入浴・清潔保持のしくみ
	18	入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみ	入浴・清潔保持のしくみ
	19	入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみ	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
	20	入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみ	変化の気づきと対応・演習
	21	排泄に関連したところからだのしくみ	排泄のしくみ
	22	排泄に関連したところからだのしくみ	排泄のしくみ
	23	排泄に関連したところからだのしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響
	24	排泄に関連したところからだのしくみ	排泄での変化の気づきと対応・演習
	25	休息・睡眠に関連したところからだのしくみ	休息・睡眠のしくみ
	26	休息・睡眠に関連したところからだのしくみ	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響
	27	休息・睡眠に関連したところからだのしくみ	変化に気づくためのポイント
	28	人生の最終段階のケアに関連したところからだのしくみ	「死」を理解する。終末期から「死」までの変化と特徴
	29	人生の最終段階のケアに関連したところからだのしくみ	「死」に対するところの理解
30	人生の最終段階のケアに関連したところからだのしくみ	医療職との連携のポイント・全体のまとめ	

授業科目 (科目ID)	医学概論		担当教員  (実務経験)	泉 共基  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	医学概論は医療福祉の分野における基礎的な学問であり、身体構造をはじめ健康と疾病の概念、疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション、公衆衛生について学びます。福祉職が業務を行うにあたって必要な医療知識や健康対策・保健医療対策の知識を学びます。				
到達目標	身体構造に関する知識を習得し、どのような役割や機能を果たしているかを説明できる。保健医療における健康と疾病の概念を述べるができる。疾病がどのように発生するか、原因と機序を理解したうえで予防方法を考えることができる。公衆衛生の考え方と対策を述べるができる。				
テキスト・参考図書等	「最新 社会福祉養成講座・精神保健福祉養成講座1 医学概論」 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版 「新版 からだの地図帳」 講談社				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	定期試験、小テスト、提出物、グループワークへの参加態度を総合して評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	10%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	小テストを実施することがあります。評価方法に含まれているので積極的に参加してください。 福祉医療に必要な基礎的な授業です。今後も深く関わる内容であるため、難しく考えずに楽しく参加してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	ライフステージにおける心身の変化と健康課題	オリエンテーション ライフステージにおける心身の特徴と健康課題		
	2	身体の構造と心身機能① 健康及び疾病の捉え方	身体構造と骨の仕組み 健康と疾病の概念 健康の定義		
	3	身体の構造と心身機能② 疾病と障害の成り立ち	心身機能(肺循環と体循環) 疾病の発生原因と成立機序		
	4	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション① リハビリテーションの概要 骨と関節の疾患、眼科疾患	リハビリテーションの定義、目的、対象と方法 骨折 眼の構造 視覚障害		
	5	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション② 呼吸器疾患 耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害	肺の構造 慢性閉塞性肺疾患(COPD) 肺炎 肺結核 肺がん 睡眠時無呼吸症候群 耳の構造 耳鼻咽喉疾患 聴覚障害 平衡機能障害		
	6	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション③ 感染症 口腔疾患	ノロウイルス感染 エイズ コロナウイルス ウイルス性肝炎 結核 腸管出血大腸炎(O157) う菌 菌周疾患		
	7	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション④ 精神疾患・発達障害 小児疾患・婦人科疾患	発達障害をはじめとする主な精神疾患 小児科疾患(発達障害 肢体不自由 障害者手帳)ダウン症 血友病 妊娠と合併症		
	8	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑤ 神経疾患 認知症、高次脳機能障害 脳血管疾患	脳の構造 アルツハイマー型認知症 レビ-小体型認知症 パーキンソン病 脳梗塞 脳出血 クモ膜下出血		
	9	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション① 内分泌疾患	糖尿病(分類 慢性合併症 治療) 代謝異常(高尿酸血症 痛風) 甲状腺疾患(機能亢進症バセドウ病 機能低下症 慢性甲状腺炎)		
	10	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション② 腎・泌尿器 生活習慣病	腎臓の構造 腎不全(急性腎不全 慢性腎不全)腎代替療法(血液透析 腹膜透析 腎移植) 泌尿器疾患 尿路感染 前立腺疾患 悪性新生物(がん)		
	11	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション③ 血液疾患 膠原病 アレルギー疾患	血液疾患(貧血と白血病) 関節リウマチ SLE アナフィラキシーショック		
	12	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション④ 心疾患	虚血性心疾患(狭心症 心筋梗塞) 心不全 不整脈 大動脈疾患 高血圧		
	13	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑤ 消化器疾患	消化器の構造 肝胆膵疾患(肝炎 肝障害 肝硬変 肝癌 膵炎 胆石症)消化器疾患・消化器癌(食道癌 胃癌 大腸癌 膵臓癌)		
	14	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑥ 高齢者に多い疾患 悪性腫瘍と緩和ケア	廃用症候群 高齢者の特徴 生理変化 老年症候群(嚥下障害 浮腫 褥瘡 脱水)		
	15	公衆衛生(公衆衛生の概要 健康増進と保健医療対策)まとめ	公衆衛生の定義と予防医学 保健医療対策 母子保健対策 成人保健対策 高齢者保健対策 精神保健対策 健康日本21		



2019年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	特別活動		担当教員  (実務経験)	担任		
				有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必須	単位数	1単位
授業形態	講義・演習・見学		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	高い倫理観と思いやりのある幅広い人間性を兼ね備えた専門職になるために、福祉分野の理解を深める。					
到達目標	①各活動に積極的に参加する。②介護福祉士の活躍の場を述べることができる。③地域や他との交流を深める。					
テキスト・ 参考図書等	必要時資料を配布します。					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	出席状況、参加姿勢、取り組み、役割、提出課題など、総合的に勘案し評価します。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	100%				
履修上の 留意事項	一つ一つ大切な履修になります。体調管理をし休まないようにしましょう。交流会では2年生との交流を深め学生生活のヒントを見つけて下さい。日程調整をしながら進行します。履修順番は変わることもあります。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	就職活動について①	就職活動の流れを理解し、具体的に自分の行動がイメージできる。			
	2	就職活動について②	履歴書記載の注意事項を理解し、下書きをする。自己アピールできる。			
	3	就職活動について③	就職セミナーを受け、より具体的な就職活動を予測できる。①			
	4	就職活動について④	就職セミナーを受け、より具体的な就職活動を予測できる。②			
	5	就職活動について⑤	就職セミナーを受け、より具体的な就職活動を予測できる。③			
	6	施設理解(就労支援施設)	障害を抱えた人の生活理解、施設の働きを理解する。			
	7	施設理解(就労支援施設)	障害を抱えた人の生活理解、施設の働きを理解する。			
	8	施設理解(視覚支援学校)	視覚障害児・者の理解を深め介護福祉士の役割を予測できる。			
	9	施設理解(視覚支援学校)	視覚障害児・者の理解を深め介護福祉士の役割を予測できる。			
	10	地域交流①	地域住民と交流を深め、介護福祉士に求められることについて考える。			
	11	地域交流②	地域住民と交流を深め、介護福祉士に求められることについて考える。			
	12	1年生との交流会①	後輩と協力し、交流が深まる企画・運営をする。			
	13	1年生との交流会②	後輩と協力し、交流が深まる企画・運営をする。			
	14	社会人常識マナー検定	社会人常識マナー検定のテキストに取り組み合格を目指す			
15	社会人常識マナー検定	社会人常識マナー検定のテキストに取り組み合格を目指す				

2019年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	特別活動		担当教員  (実務経験)	担任		
				有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必須	単位数	1単位
授業形態	講義・演習・見学		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	高い倫理観と思いやりのある幅広い人間性を兼ね備えた専門職になるために、福祉分野の理解を深める。					
到達目標	①各活動に積極的に参加する。②介護福祉士の活躍の場を述べるができる。③地域や他との交流を深める。					
テキスト・ 参考図書等	必要時資料を配布します。					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	出席状況、参加姿勢、取り組み、役割、提出課題など、総合的に勘案し評価します。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	100%				
履修上の 留意事項	一つ一つ大切な履修になります。体調管理をし休まないようにしましょう。交流会では2年生との交流を深め学生生活のヒントを見つけて下さい。日程調整をしながら進行します。順番は変わることもあります。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	専門課程を学ぶにあたって	資料を配布し、ファイリングの仕方や今後の勉強の方法を学ぶ。			
	2	ボランティア活動参加①	豊かな森林の恵みを学び、緑の募金活動に参加する。①			
	3	ボランティア活動参加①	豊かな森林の恵みを学び、緑の募金活動に参加する。②			
	4	施設理解①(特別養護老人ホーム)	施設見学を通し、仕事理解、種別理解、入居者の理解を深める。①			
	5	施設理解②(特別養護老人ホーム)	施設見学を通し、仕事理解、種別理解、入居者の理解を深める。②			
	6	施設理解③(障害児・者施設又は支援学校見学)	施設見学を通し、仕事理解、種別理解、入居者の理解を深める。③			
	7	施設理解④(障害児・者施設又は支援学校見学)	施設見学を通し、仕事理解、種別理解、入居者の理解を深める。④			
	8	2年生との交流会①	先輩と協力し、交流が深まる企画・運営をする。			
	9	2年生との交流会②	先輩と協力し、交流が深まる企画・運営をする。			
	10	障害を抱えた人と交流し生活を理解する	障害者スポーツ選手の講話後、実際にバラスポーツを体験し理解を深める			
	11	障害を抱えた人と交流し生活を理解する	障害者スポーツ選手の講話後、実際にバラスポーツを体験し理解を深める			
	12	体験学習①	さまざまな福祉機器(介護ロボットなど)を見て、触れて、体験し理解を深める。			
	13	体験学習②	さまざまな福祉機器(介護ロボットなど)を見て、触れて、体験し理解を深める。			
	14	STDについて	映像教材(DVD)を見て問題を考えることができ討議できる。			
15	卒業生3名による講話	介護福祉士の仕事、活躍の場の理解を深める				

授業科目 (科目ID)	発達と老化の理解		担当教員  (実務経験)	阿部 幸恵  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。				
到達目標	介護実践に必要な根拠となる心身の構造、機能、発達段階とその課題及び特徴的な疾病について述べられる。				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『からだの地図帳 新版』佐藤達夫 講談社				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記「小テスト」は、単元ごとに小テストを実施します。</li> <li>・左記「提出物」は、DVD鑑賞後の感想その他必要に応じてプリントの確認のための提出を求めます。</li> <li>・左記「その他」は、積極的発言や授業参加姿勢、必要資料の準備が整っているなどが含まれます。以上を総合的に勘案します。</li> </ul>		
	レポート	10%			
	小テスト	10%			
	提出物	10%			
その他	10%				
履修上の留意事項	毎回内容が違いますから休まないように自己の体調管理をしてください。休んだ際は必ず担当まで確認に来てください。少し難しい分野かもしれませんが、積極的に授業に参加してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識	オリエンテーション 成長・発達の考え方		
	2	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識	成長・発達の原則・影響する要因		
	3	第2章 人間の発達段階と発達課題	発達理論・発達段階と発達課題		
	4	第2章 人間の発達段階と発達課題	身体的機能の成長と発達 心理的機能・社会的機能の発達		
	5	第3章 老年期の特徴と発達課題	老年期の定義 老化とは		
	6	第3章 老年期の特徴と発達課題	老年期の発達課題 老年期をめぐる今日的課題		
	7	第4章 老化に伴うところからの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響①		
	8	第4章 老化に伴うところからの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響②		
	9	第4章 老化に伴うところからの変化と生活	老化に伴う心理的な変化と生活への影響 注意と記憶 パーソナリティ		
	10	第4章 老化に伴うところからの変化と生活	老化に伴う社会的な変化と生活への影響 老化理論		
	11	第5章 高齢者と健康	高齢者の健康が注目されるようになった背景と疾患の症状と特徴を理解する		
	12	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨関節系(骨粗鬆症・骨折など)		
	13	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨関節系(変形性膝関節症・腰部脊柱管狭窄症、関節リウマチなど)		
	14	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系(パーキンソン病)		
15	ここまでの振り返り	ここまでのまとめ 振り返り			

履修主題・履修内容	16	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系(脳血管疾患)
	17	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系(脳血管疾患)
	18	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	皮膚・感覚器系(白内障・緑内障・黄斑変性症・難聴・皮膚疾患)
	19	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系(高血圧・虚血性心疾患・不整脈・心不全・閉塞性動脈硬化症)
	20	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系(高血圧・虚血性心疾患・不整脈・心不全・閉塞性動脈硬化症)
	21	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	呼吸器系(慢性閉塞性肺疾患・肺炎・喘息・結核)
	22	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	消化器系(消化性潰瘍・逆流性食道炎・肝硬変など)
	23	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	腎・泌尿器系(前立腺肥大症・尿路感染症・慢性腎臓病・(復習/尿失禁))
	24	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	内分泌・代謝系(糖尿病・脂質異常症・痛風など)
	25	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	歯・口腔疾患(歯周病・ドライマウス) 悪性新生物(概要・変遷・法律など)
	26	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	さまざまな悪性新生物(がん)について
	27	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	感染症(ウイルス性呼吸器感染症・感染性胃腸炎・胆のう炎・胆管炎・疥癬)
	28	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	精神疾患(うつ病・統合失調症)
	29	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	その他(熱中症・脱水・貧血) 多職種連携
30	まとめ	今までの振りかえりとまとめ	

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	認知症の理解 I		担当教員  (実務経験)	宮下 史恵  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として社会福祉協議会に勤務	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	認知症についての理解を深めるとともに、認知症の人の理解を深めていきます。				
到達目標	認知症とは何か、認知症をきたす様々な疾患について説明できることを目標とします。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 (参考図書)『実践・パーソン・センタード・ケア 認知症をもつ人たちの支援のために』水野裕 ワールドプランニング				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	定期試験70%、レポート20%、ミニテスト10%とし判断します。		
	レポート	20%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	テキスト、最近のニュース、自身の体験などをもとに、授業展開をします。DVDなどの映像教材、グループディスカッションなどによりさらに理解を深めていきます。この授業は介護福祉士になるうえで、必ず身に付けたいスキルとなります。自ら学ぶ姿勢をもって、積極的に授業への参加を望みます。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	本授業の進め方、キーワード、認知症からイメージするもの		
	2	認知症とは ①	認知症の特徴 脳のしくみ 初期の生活障害		
	3	認知症とは ②	脳を構成する細胞 脳の働き		
	4	認知症とは ③	脳の構造と症状の関係 せん妄、老化との関係		
	5	認知症の人の心理	パーソン・センタード・ケア DVD鑑賞		
	6	認知症のさまざまな症状 ①	中核症状の理解		
	7	認知症のさまざまな症状 ②	生活障害の理解		
	8	認知症のさまざまな症状 ③	BPSDの理解		
	9	認知症の検査	認知症の診断、原因疾患と症状・生活障害		
	10	認知症の原因疾患 ①	アルツハイマー型認知症 血管性認知症		
	11	認知症の原因疾患 ②	レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 他		
	12	認知症の予防	認知症の歴史、予防・危険因子		
	13	認知症のケア	認知症ケアの理念と視点		
	14	認知症の人の体験	認知症当事者の視点		
15	まとめ	認知症の理解 I を通して			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	障害の理解		担当教員  (実務経験)	山形 千都子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保健師・障害者相談支援専門員として障害者支援従事	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義・演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	障害のある人の生活を支える上で基本となる障害のとりえ方や障害福祉の基本理念を理解し、障害別の基礎的知識とそれぞれの障害特性に応じた支援のあり方を習得する。障害のある人や家族の地域での生活を理解し、それを支える社会資源や多職種との連携・協働、家族支援のあり方を習得する。				
到達目標	①障害の概念と障害者福祉の基本理念に関して説明ができる。 ②障害のある人の生活と障害特性に応じた支援について説明ができる。 ③障害のある人の支援に必要な連携と協働、家族への支援について説明ができる。				
テキスト・参考図書等	「最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解 第2版」 編集:介護福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	試験、提出物、授業参加態度等、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
	その他	20%			
履修上の留意事項	毎回講義資料を配布し各回の授業展開・目標を提示します。教科書を基本に演習課題を提示しグループワークで深めていくので、積極的に参加し必ず発言をしてください。ホームワークをもとに次回の授業で演習を行いますので、自己学習に取り組んでください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	障害の基礎的理解	オリエンテーション 障害の概念、障害者福祉の基本理念		
	2	障害の基礎的理解	障害者福祉の現状と施策		
	3	障害が及ぼす心理的影響について	病気や事故による障害の受容課程と心理的支援方法		
	4	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I	運動機能障害、視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害の理解と支援		
	5	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I	内部障害の理解と支援(循環器・呼吸器・泌尿器・消化器)		
	6	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I	内部障害(HIV,肝機能)、重症心身障害の理解と支援		
	7	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 II	知的障害・精神障害の理解と支援		
	8	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 II	精神障害の理解と支援		
	9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 II	高次脳機能障害、発達障害・難病の理解と支援		
	10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 II	演習 アセスメントについて学ぶ		
	11	連携と協働	地域のサポート体制		
	12	連携と協働	多職種協働によるチームアプローチ		
	13	家族への支援	家族支援の在り方 家族の介護力の評価と介護負担の軽減		
	14	当事者主体の自立支援の在り方	演習 事例で自立支援を考える		
15	まとめ	これまでの学習のまとめ			

授業科目 (科目ID)	障害者福祉		担当教員  (実務経験)	山形 千都子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保健師・障害者相談支援専門員として障害者支援従事	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	地域共生社会の実現を推進する専門職として、障害者の権利を擁護し当事者主体の生活を支える上で必要な知識と視点を習得する。障害者福祉の歴史や現状、各種法制度を学び、専門職が果たす役割について理解を深める。				
到達目標	①障害者とその家族の生活実態とこれを取り巻く社会環境を知り、現状の課題について説明ができる。 ②障害者福祉の変遷と現在の法制度を理解し、説明ができる。 ③障害者と家族等の支援に関わる関係機関・専門職の役割と支援の実際を理解する。				
テキスト・参考図書等	「最新 社会福祉士 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉」編集:日本ソーシャルワーク教育学校連盟 発行所:中央法規				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	試験、提出物、授業参加態度等、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
	その他	20%			
履修上の留意事項	毎回講義資料を配布し各回の授業展開・目標を提示します。教科書を基本に演習課題を提示しグループワークで深めていくので、積極的に参加し必ず発言をしてください。ホームワークをもとに次回の授業で演習を行いますので、自己学習に取り組んでください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	障害概念と特性	各法律による障害者の定義、障害の特性と支援内容、理念前期講義の復習		
	2	障害者福祉の理念	障害観の変遷とノーマライゼーション		
	3	障害者福祉の歴史	障害者への処遇と福祉制度の変遷		
	4	障害者福祉の歴史	障害者運動(当事者活動、親の会)、障害者基本法の改正		
	5	障害者の生活実態	障害者の生活実態と家族の現状		
	6	障害者を取り巻く社会環境と課題	バリアフリー、障害者虐待		
	7	障害者に対する法制度	法制度の全体像、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法		
	8	障害者に対する法制度	精神保健福祉法、発達障害者支援法、児童福祉法		
	9	障害者に対する法制度	障害者総合支援法、自立支援給付		
	10	障害者に対する法制度	障害者虐待防止法、障害者差別解消法、バリアフリー法等		
	11	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割	行政・労働・教育・医療機関の役割		
	12	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割	関連する専門職の役割		
	13	支援の実際	障害領域における専門職の役割		
	14	支援の実際	演習 事例で多職種連携による支援を考える		
15	まとめ	これまでの学習のまとめ			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ		担当教員  (実務経験)	福島 令佳  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として母子生活支援施設に勤務	
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	ソーシャルワーク専門職として基盤となる価値・知識を身につけ、ソーシャルワーク実践への理解の導入を図る。				
到達目標	ソーシャルワークの概念、基盤となる考え方、倫理、ソーシャルワークの形成過程について、説明できることを目標とする。				
テキスト・ 参考図書等	『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』 一般財団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	% 定期試験の結果や提出物で評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	授業では、テキストの使用のほか、講義資料を配布する。本科目は、ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士の実践の基盤を理解するものであるため、その重要性を認識して受講してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	本授業の進め方・評価基準、3つの国家資格をもつことの意義		
	2	社会福祉士の役割	現代社会の理解		
	3	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ	社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法		
	4	ソーシャルワークの概念	ソーシャルワークの定義		
	5	ソーシャルワークの概念	ソーシャルワークの構成要素		
	6	ソーシャルワークの基盤となる考え方	ソーシャルワークの原理、理念		
	7	ソーシャルワークの形成過程	ソーシャルワークの源流		
	8	ソーシャルワークの形成過程	ソーシャルワークの基礎確立期		
	9	ソーシャルワークの形成過程	ソーシャルワーク発展期		
	10	ソーシャルワークの形成過程	ソーシャルワークの展開期と統合化		
	11	ソーシャルワークの形成過程	日本におけるソーシャルワークの形成過程		
	12	ソーシャルワークの倫理	専門職倫理の概念		
	13	ソーシャルワークの倫理	倫理綱領		
	14	ソーシャルワークの倫理	倫理的ジレンマ		
15	まとめ	全体の振り返り			



2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		担当教員  (実務経験)	福島 令佳  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として母子生活支援施設に勤務	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	本科目では、「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」の理解をもとに、次の点について理解することを目的とする。①社会福祉士の職域と求められる役割を理解する、②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する、③ミクロ・メゾ・マクロにおけるソーシャルワークの対象と実践、レベルの連関性について理解する、④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義・内容について理解する。				
到達目標	本科目の履修を通して、①ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士が働く分野や職域について説明できる、②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける各レベルの対象と実践、レベルの連関性について説明できる、③ジェネラリストの視点および総合的かつ包括的な支援の意義とその内容を説明できる、④多職種・多機関連携によるチームアプローチの意義とその内容について説明できる、ことを目標とする。				
テキスト・参考図書等	『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版				
評価方法・評価基準		評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	定期試験の結果や提出物で評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	%			
履修上の留意事項	授業では、テキストの使用のほか、講義資料を配布する。本科目は、ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士の実践の基盤を理解するものであるため、その重要性を認識して受講してください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」との連動の展開		
	2	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲	専門職とは、社会生活・地域支援の専門職としてのソーシャルワーカー		
	3	社会福祉士の職域	社会福祉士が働く職域・職場の理解(行政、福祉、保健医療)		
	4	社会福祉士の職域	社会福祉士が働く職域・職場の理解(教育、司法、独立型事務所等)		
	5	福祉行政等における専門職	社会福祉行政における福祉専門職の職種と業務内容およびその役割		
	6	民間の施設・組織における専門職	民間施設・組織における福祉専門職の職種と業務内容およびその役割		
	7	諸外国の動向	欧米諸国の動向、その他の諸外国の動向		
	8	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象	「ミクロ・メゾ・マクロ」の意味と各レベルにおけるソーシャルワークの対象		
	9	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおける実践内容の理解		
	10	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	ミクロ・メゾ・マクロレベルの連関性と支援の実際		
	11	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点	総合的かつ包括的な支援としてのソーシャルワークとジェネラリストの視点の理解およびその意義		
	12	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容	多機関・多職種の連携・協働による包括的支援体制とその構築、さまざまな社会資源の活用・協働、ソーシャルサポートネットワークの理解		
	13	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携およびチームアプローチの意義と内容	多職種連携およびチームアプローチの意義と内容		
	14	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携およびチームアプローチの意義と内容	機関・団体間の合意形成および関係の形成、利用者・家族の参画		
15	まとめ	全体の振り返り			

授業科目 (科目ID)	ソーシャルワーク演習 I		担当教員  (実務経験)	高泉 一生  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として病院に勤務	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	本科目では、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養することを目的として、①ソーシャルワークの価値原則と倫理、②基本的コミュニケーション能力、③コミュニケーションの展開過程における基礎知識・技術を実践的に学ぶ。				
到達目標	演習を通じて、①言語的・非言語的コミュニケーションの重要性を説明できる、②自己理解や他者理解の必要性、バ이스ティックの7原則の重要性を説明できる、③ソーシャルワークの基本的概念や展開過程を説明できる、④自分の思いや考えの主体的・積極的な言語化を実施できる、⑤他者の発言に対してコメントや質問等、主体的・積極的なリアクションを実施できる、⑥ソーシャルワーク記録の書き方の留意点について説明できる、ことを到達目標とする。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	提出物の内容と提出状況、グループディスカッションでの積極的な発言やその内容、プレゼンテーションの実施姿勢やその内容、教員の問いかけに対する応答、自分の思いや考えを言語化しようとする意欲、演習への主体性・積極性などを総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	40%			
その他	60%				
履修上の 留意事項	本科目は演習科目のため受け身で受講するのではなく、自ら能動的に発言・意見・質問に取り組むこと。また、他者の意見や考えを受け止める姿勢も重要であり、他者の発言には積極的に耳を傾け、理解しようという意識を持って臨むこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、ソーシャルワークの基本	本科目の位置づけ、目的、進め方、評価基準の理解 ソーシャルワークの基本の理解		
	2	自己覚知、基本的なコミュニケーション①	自己理解・他者理解 言語的コミュニケーション技術		
	3	基本的なコミュニケーション②	非言語的コミュニケーション技術 バ이스ティックの7原則		
	4	基本的な面接技術	面接の構造化、基本的かかわり技法の理解、場の設定、ツールの活用		
	5	ソーシャルワークの展開過程①	ケースの発見、エンゲージメント(インテーク)		
	6	ソーシャルワークの展開過程②	アセスメント、プランニング		
	7	ソーシャルワークの展開過程③	インターベンション、モニタリング		
	8	ソーシャルワークの展開過程④	エバリュエーション、ターミネーション、アフターケア		
	9	ソーシャルワークの記録①	記録の意義と類型、支援経過の把握と管理		
	10	ソーシャルワークの記録②	記録の留意点		
	11	グループダイナミクスの活用①	グループワークの構成と展開過程		
	12	グループダイナミクスの活用②	ファシリテーション技術		
	13	プレゼンテーション技術	個人プレゼンテーション		
	14	プレゼンテーション技術	グループプレゼンテーション		
15	まとめ	全体の振り返り			



授業科目 (科目ID)	ソーシャルワーク実習指導 I		担当教員  (実務経験)	杉浦 理恵  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として児童福祉施設に勤務	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	本学科の実習は、1年次の介護福祉基礎実習に始まり、4年次のソーシャルワーク実習Ⅲまで、積み上げを意識している。そこで本科目では、①4年間の実習の流れ(全体像)を把握し、当該実習の位置づけや目的、他実習との連関を理解する、②実習教育の意味及び構造を理解する、③ソーシャルワークの基礎知識を振り返るとともに実践の場を理解する、④ソーシャルワーク実習生としての姿勢を身につけることを目的とする。				
到達目標	①主体的な学習姿勢で授業に臨むことができる。②介護福祉基礎実習からソーシャルワーク実習への積み上げを意識し説明できる。③実習教育の意味及び構造を説明できる。④ソーシャルワーク及び実践の場に関する知識を習得し、ソーシャルワーク実践をイメージできる。				
テキスト・参考図書等	『最新・社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習【社会専門】』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	・レポート、小テスト、リアクションペーパーの内容および提出状況や、主体的な学習姿勢(グループディスカッション時における主体的参加、共感的理解、無条件の肯定的関心、能動的・積極的傾聴、教員の問いかけに対する応答など)により評価します。		
	レポート	30%			
	小テスト	30%			
	提出物	30%			
その他	10%				
履修上の留意事項	教科書を基本としますが、必要に応じてレジュメや資料を配布するほか、視聴覚機器やICT端末を活用します。また、状況によっては見学実習や実習指導者講話を予定します。配布プリントは、各自でファイルを用意し、整理してください。分からないこと、困っていることなどがあれば、教員に相談して下さい。実習に向かうための準備を行う科目ですので、実習時に求められる主体的な行動を意識して臨んでください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	実習教育の全体像 (杉浦・吉岡)	実習とは 4年間で履修する各実習や「講義―演習―実習」のつながり・循環の理解		
	2	ソーシャルワーク実習の意義・目的① (杉浦・吉岡)	ソーシャルワーク実習を行う実践の場の紹介と特徴 ソーシャルワーク実習で求められる内容		
	3	ソーシャルワーク実習の意義・目的② (杉浦・吉岡)	ソーシャルワーク実習の目的と意義 スペシフィックな現場体験とジェネラリストソーシャルワーカー養成		
	4	ソーシャルワーク実習指導の意義・目的 (杉浦・吉岡)	「実習前―実習中―実習後」のつながりの理解 実習生のレジネスとしての自己肯定感と自己評価		
	5	ソーシャルワーク実習の構造① (杉浦・吉岡)	実習にかかわるシステムと4者関係 構造的なものの見方		
	6	ソーシャルワーク実習の構造② (杉浦・吉岡)	実習構造からみえる実習生、教員、実習指導者に求められること 構造的なものを見ることの意義		
	7	ソーシャルワークの基本① (杉浦・吉岡)	地域福祉領域の事例から学ぶソーシャルワーク実践とクライアント理解①		
	8	ソーシャルワークの基本② (杉浦・吉岡)	地域福祉領域の事例から学ぶソーシャルワーク実践とクライアント理解②		
	9	ソーシャルワークの基本③ (杉浦・吉岡)	高齢福祉領域の事例から学ぶクライアント理解とアセスメント、プランニング①		
	10	ソーシャルワークの基本④ (杉浦・吉岡)	高齢福祉領域の事例から学ぶクライアント理解とアセスメント、プランニング②		
	11	ソーシャルワークの基本⑤ (杉浦・吉岡)	子ども家庭福祉領域の事例から学ぶソーシャルワーク実践		
	12	ソーシャルワークの基本⑥ (杉浦・吉岡)	これまでの事例からソーシャルワークの専門性について考える ジェネラリスト・ソーシャルワークの理解		
	13	現場体験学習・見学実習 (杉浦・吉岡)	施設や事業所における体験学習・見学実習		
	14	現場体験学習・見学実習 (杉浦・吉岡)	施設や事業所における体験学習・見学実習		
15	ソーシャルワーク実習に向けて (杉浦・吉岡)	全体の振り返りと今後のソーシャルワーク実習指導の展開			



授業科目 (科目ID)	キャリアデザイン I		担当教員  (実務経験)	泉 共基  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8回	時間数 15時間
授業目的	本科目は、各人が自分自身の『こうありたい』という自己イメージを明確にし、その実現のためにどうすれば良いのかを考えるとともに、4年間を見据えた各学年における方向性を構想・実践することを目的としている。				
到達目標	①学校生活で求められる姿勢・態度を理解し、自己管理しながら学生生活を送ることができる、②レポートの基本的書き方を理解し作成できる、③次年度の課題・目標を明確にできる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	・レポート及び提出物(提出状況や内容)、参加姿勢等にて総合的に評価する		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	60%			
履修上の 留意事項	各人が自分自身というものを客観視でき、自分自身の将来についての方向性を持ち、その実現のための手掛かりを得ること、また有意義な学生生活を送ることができることを期待します。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	キャリアデザインとは 学生生活(4年間)の全体像と到達点の理解		
	2	学生生活について	学生生活のイメージ形成と自己管理		
	3	学習の準備として	レポート作成に必要な基本事項の理解		
	4	自己を理解する	自分を理解し、実習に向けての個人目標がたてられる		
	5	対人援助専門職の理解	介護福祉実習 I の振り返りと今後の課題		
	6	先輩から学ぶ・学科内交流	学校生活の過ごし方・学習の仕方を聞き、問題解決を図る		
	7	相談員の職業理解と学生生活	卒業生講話から相談員の職業理解、学生生活の過ごし方の理解を図る		
	8	1年間の振り返りと自己評価	1年間の振り返り、今後の課題を明確化する(クラス目標含む)		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					